

# 原発災害による苦難と 科学・学術の責任

原発の安全のための方策や事故後の対応において  
科学者や専門家の行動や情報提示にどのような問題があったか  
学術のあり方の基本に立ち返って討議します

〈開会挨拶〉 野家啓一（東北大学 教授）

〈パネリスト〉

北村正晴（東北大学 名誉教授, [株]テムス研究所 所長）

「理念と実践の谷を越える責任」

戸田山正久（名古屋大学大学院情報科学研究科 教授）

「科学性と民主的正統性の交点としてのリスク評価」

大庭健（専修大学文学部 教授）

「国家の犯罪は国民が裁けない？—アシオからフクシマへ—」

藤垣裕子（東京大学大学院総合文化研究科 教授）

「科学者の社会的責任論からの再考—「想定」の意味論と応答責任—」

〈司会〉 島藺進（東京大学大学院人文社会系研究科 教授）

八木絵香（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 准教授）

〈閉会挨拶〉 西村清和（東京大学 名誉教授）

〈日時〉 2012年12月8日〔土〕13:00~17:00（開場12:30）

〈会場〉 日本学術会議講堂

東京都港区六本木 7-22-34

東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5番出口すぐ

参加無料  
事前申し込み不要  
どなたでもご参加できます

〈お問い合わせ〉

日本宗教研究諸学会連合 事務局 jfssr20084@gmail.com